

# 家庭教育つうしん

令和6年3月発行第87号

発行責任者：士別市教育委員会社会教育課  
課長 千葉 真奈美  
(電話 26-7308)

メール：shakaikyoubu@city.shibetsu.lg.jp  
作成者：士別市家庭教育推進員 共同作成

## 子どもとの関わり方について

子どもとの関わり方で意識するポイントとして、ありのままの姿を認めること以外にも、見守りながら心の変化を見つけ、変化に合わせて仕掛けていくといった関わりが重要になっていきます。また、子どもと接するときは、言葉がけも大切なポイントとされています。伝えたい内容に合わせて、子どもの気持ちに寄り添いながら丁寧に伝えることを意識しましょう。

そこで今回は、「子どもとの関わり方について」をテーマに、家庭教育推進員からの情報をお届けします。

### 「親子の関わり方について」

子どもとの関わり方で、特に大事にしたいのは親子の関わり方です。

親は子を愛しているのは分かり切っている当たり前のことと思われがちですが、子どもは、中々分かっていないものです。自分が親の愛に包まれていることを実感し、心の奥底まで親の愛に満たされていると直感的に感じ続けるまで、親はしっかりと伝えなければなりません。子どもは何も言いませんが、子どもが大きくなるにつれ、自分がどんな間違いや失敗をしても親は自分を愛してくれている、愛されているという自信や安心感の大きさの違いが、行動の違いとなって現れてきます。

親が愛していることをどのように伝えるのか、いつも十分に伝えているという方ばかりだと思いますが、努めてスキンシップをしてあげてください。毎日数秒間でも、抱っこやぎゅっとハグしてあげる、膝に乗せたり横に並んで体の一部をくっつけたりしながらお話を聞くのもよいでしょう。手をつないで歩くこともその一つになります。また、名前をしっかりと呼んであげること、目を見て話を聞くこと、子どもの呼びかけにきちんと返事をする 것도簡単

にできる愛情表現です。

ぜひ、大切なお子さんにたくさんの愛を表現してあげてください。

(温根別小学校教頭：大久保推進員)

### 「子どもの心が強くなる言葉かけ 心を支える5つの言葉」

お子さんと関わる時に、どんな言葉をかけていますか？

一人ひとり性格が異なるように、同じ言葉を言われても、深刻に受け止める子もいれば、全く気にしない子もいます。キズつきやすい子は、自己肯定感(自分の価値や存在意義を肯定できる感情)を持たずに自分に対しての評価が低く、人を思いやる気持ちの余裕がもてません。この自己肯定感、周囲の言葉かけや態度によって培われていきます。自己肯定感を育て、心を支える5つの言葉を意識できるといいですね。

☆認めることば・・・「～をよくがんばったね」「～ができたね」

親が自分を見守り、認めてくれていることを知り「よし、やるぞ」という意欲がわいてきます。

☆共感することば・・・「つらかったね」「楽しかったね」「うれしいね」

親と気持ちを共有できている安心感から自己肯定感を持つことができます。

☆励ますことば・・・「もう少しだね」「一緒にやってみよう」

応援してくれる親の姿に勇気をもらい「うん、やってみる」と再挑戦する気持ちが育ちます。

☆なぐさめることば・・・「だいじょうぶだよ」

親に対してより深い親近感を持ち、心強さを感じます。

☆感謝することば・・・「～してくれてありがとう」

感謝の気持ちの伴った「ありがとう」は、子どもにも感謝の気持ちが培われます。

(北星保育園副所長：宮田推進員)

### 「主体性と関わり方」

昨年、国会で閣議決定された「教育基本振興計画」にて、社会の現状として「将来の予測が困難な時代」とされており、「人々の考えや価値観の多様化を察知し、判断」、「不確定要素が多く予測不可能な中での意思決定」、「多様性を柔軟に受け入れる」、「答えが一つではない中で問題が発生時に柔軟な対応ができる」ことが求められる世の中になると言われています。

これからの時代を生きる子どもたちは、常に自分で調べ、考え、行動する力が大切になってくるでしょう。行動を決定するのに、必要な知識を身につける体験がとても重要になります。似たような場面に遭遇していたから乗り越えられた、経験が活きたと思う場面が来るかもしれません。

途中、うまくいかず失敗することもあります。が、「なぜ失敗したか」、「次はどうしたらいいか」を一緒に考えることも大切です。

「子育ては親育ち」という言葉もあります。大人もこれからの社会に対応できるように考えていかなければいけませんね。

(士別市教育委員会社会教育課主事：田中推進員)

## 「尊い存在として」

多種多様・超少子化時代の中、身近であり聞かれなくなった子育てに関することわざ。皆さんのまわりで話題になることはあるでしょうか？

今回のテーマ「子どもとの関わり方について」を考えたとき、私はふと「はえば立て、立てば歩めの親心」や「鏡は先に笑わない」等のことわざがすぐに頭に浮かびました。

一つ目は子どもが何かひとつできるようになると、ついついすぐにその次を願ってしまう親心を表現したのですが、その一方で子どもの成長発達過程よりも、逸る気持ちが親や大人の勝手な思いであることを忘れてはいけないということを教えてくれています。誰もが子どもたちの健やかな成長に期待や希望を持っていることと思いますが、ぜひ、ゆったりとした気持ちで構え、待つ心も大切にしたいものですね。

二つ目は、鏡に映る自分を笑わすためには、まず自分が笑わなければならないように、それと同じく親が笑わないと子どもも笑わないということを感じさせてくれます。どちらのことわざも子どもを尊重して関わっていくことを時に教えてくれているように思います。子どもは命や安全を守るべき存在ですが、小さくとも一人の人間として関わってあげると、どんどん自信を持って社会にすすみ、さらに大きくなっていくことでしょう。

(士別幼稚園園長：谷推進員)

## 「子どもとの関わり方についてのおすすめ本」



「だっこだっこ」

金の星社 (2013.8) つちだ よりはる さく／え

くまの子がパン屋さんにおつかいにいきます。でもお店はお休みで…がっかりした気持ちと、帰り道に出会ったたくさんの「だっこ」を見ておかあさんが恋しくなった気持ち。急いで帰りたくて転んで痛かったくまの子は、どうしてほしいのかな？最後はぎゅーっとだっこして、笑顔いっぱいになれる優しい絵本です。



「造形かがく遊び」

小学館 (2023.11) 築地製作所 編

工作の楽しさと科学の面白さが合体した、魅力いっぱいの工作本です。身近な素材で、ちょっと不思議で面白いおもちゃができてあがります。自分で考えて、手を動かして、難しいところは大人が手伝って、遊びごたえ大満足の作品を作りましょう。空気、音、色など、テーマ別100種類以上の作り方が掲載されています。一緒に何かを作り上げた達成感を共有することで、ふれあいも自己肯定感も高まります。



「犯罪心理学者が教える子どもを呪う言葉・救う言葉」

SBクリエイティブ (2022.8) 出口 保行 著

一瞬ギョツとするタイトルですが、法務省に長年勤務し、実際に非行少年や犯罪者と現場で向き合ってきたからこそ言えるつつい当たり前にかける言葉の「危うさ」を説いています。「良かれと思って」かけた言葉が思わぬ結果に進んでしまった事例を「みんなと仲良く」「早くしなさい」「頑張りなさい」「何度言ったら分かるの」「勉強しなさい」「気をつけて」の6章にわたって解説しています。

これらの本のほかにも、関連する図書を貸し出ししています。ぜひ図書館へお越しください。

(市立士別図書館司書：安藤推進員)